アドバンスト
ビジネス

個人・VBの発明支援

米社の特許買い取り仲介

知的財産のコンサルタント会社、アドバンストビジネス（甲府市、永井武社長）は、米国の特許管理会社であるインテレクチュアル・ベンチャーズ（IV）と提携し、個人や中小ベンチャー企業の発明とアイデアを発掘、支援する業務を始めた。県内や首都圏での環境やバイオなどの案件を対象とし、国際的な特許出願につなげる。

アドバンストは特許出願前の発明とアイデアを開拓する。同社はIVとともに案件を評価分析。日本や欧米、アジアで特許出願が可能な場合、IVが特許申請を代行し、発明者に報奨金を支払い特許の譲渡を受ける。アドバンストは仲介手数料を受け取る仕組み。

IVは報奨金という形で買い取った特許を、第三者に有償でライセンスを供与する。その後、特許が収益を上げた際、収益の一部を発明者にロイヤルティーとして還元する。発明とアイデアは「環境、バイオのほか情報技術（IT）、エネルギー、ハイテク機器、新素材、製薬などグローバル展開を期待できるもの」（永井社長）という。

アドバンストは現在、相模原市に本社のある大学発ベンチャー企業の社長が考案したバイオエタノールの精製機械など3件の発明を発掘。国際特許出願が可能かどうか評価分析している。

IVはマイクロソフトやインテルの元幹部らが2000年設立。日本にも進出している。今回の事業にあたり、総額50億ドルの発明支援ファンドを組成している。